

九州大谷幼児教育・児童福祉学会
第9回 遊びと表現発表会

2019.12.14(土)

13:00開演(12:30開場)

17:00終演予定

於九州大谷短期大学 大谷講堂

プログラム

●オープニング／トーンチャイム演奏と歌、手話（Mクラス1年）

1 身体表現（下見保育所 4歳児）
「ロボット工場」 (13:03頃)

●幕間／ブームワッカー演奏（Lクラス1年）

2 ボディパーカッション（九州大谷幼稚園 年中児）
「みんなで楽しくリズム遊び」 (13:21頃)

●幕間／手あそび・歌（Gクラス1年）

3 劇（Iクラス）
「十二支のはじまり」 (13:39頃)

* 休憩（10分間）*

●幕間／手遊び・歌遊び（Fクラス1年）

4 総合表現（Gクラス）
「君の心を開いて～『きりかぶ』より～」 (14:17頃)

●幕間／ボディパーカッション（Mクラス1年）

5 創作絵本・世代間交流（専攻科Sクラス）
「人生100年、いや120年～自分らしく、その人らしく～」 (14:45頃)

* 休憩（5分間）*

●幕間／歌遊び（Iクラス1年）

6 劇（Fクラス）
「赤ずきん」 (15:08頃)

●幕間／手あそび・ブームワッカー演奏（Hクラス1年）

7 音遊びと身体表現（Mクラス）
「四季音～Sounds of Four Seasons～」 (15:31頃)

* 休憩（10分間）*

●幕間／手遊び・歌（Lクラス1年）

8 創作表現（Hクラス）
「フレデリックからの大切な贈り物」 (16:04頃)

●幕間／手遊び・トーンチャイム演奏（Gクラス1年）

9 運動遊び・身体表現（Lクラス）
「かいぞくになろう！おおたにハイランド」 (16:27頃)

講評

吉柳佳代子（幼児教育学科准教授）

挨拶

森永牧子（幼児教育学科学科長）

第9回「遊びと表現発表会」によせて

平成23年より始めました「遊びと表現発表会」も今回で第9回を数えます。

本日、皆さまにお集まりいただき、学びの集大成として「遊びと表現発表会」が開催できますことを幼児教育学科・専攻科福祉専攻の学生ともども、大変喜ばしく感じております

幼児教育学科・専攻科福祉専攻では、「共に育ちあう人へ～遊びと表現が育てる保育と介護の力～」の実現のために取り組んでまいりました。そして2020年の50周年にむけて、子どもの自由な表現を受けとめ、自己を問うことができる（人）保育者の養成を目指し教育改革を進めてまいります。

「遊びと表現発表会」は、幼児教育学科・専攻科福祉専攻が目指す教育を具現化したものであると言えます。それは「本学の願い」である「人生の主体者となる・共に歴史と世界を生きる・問いを学ぶ」ことが、遊びと表現活動において学生・教員が共に実践できる場であるからです。

さらに、保育は子ども達が様々な生きる力を獲得するのを援助することであり、介護は介護を必要とする人たちが生きる力の再獲得、あるいは維持を援助する事であると考えます。そのいずれにおいても、子ども達あるいは利用者の皆さんが「遊びや表現を主体的に行う者」となることによって可能になるのです。それらの援助をするための意志と実践力を確かなものにするのがこの発表会に向けてのとりくみです。

くわえて、表現力は同時に鑑賞力でもあります。学生は今回のとりくみ・遊びや表現の体験を通して、幼い子どもたちや援助を必要とする方々の、遊びや表現の良き理解者・よき受け手となることも期待されています。

今回は、九州大谷幼稚園と下見保育所（筑紫野市）からの発表会参加そして、地域でボランティア活動をされているひまわり会（久留米市塚崎）の皆さまのご協力を得ることができました。九州大谷幼稚園、下見保育所の園児の皆さん、先生方、保護者の皆様方、ひまわり会の方々に感謝しております。今後も発表会の発展と学生の学びを確かなものにするために、地域との連携を深めてまいりたいと思います。

幼児教育学科の6つのクラスと専攻科福祉専攻の特色ある発表と、幕間では、1年生が授業での学びを披露いたします。ご来場の皆さま方には、学生と教員の「共に生きようとする姿」をあたたく見守り、共に各クラスの成果を楽しみ、今日までの取り組みに思いを馳せていただけたらと存じます。

2019年12月14日

九州大谷短期大学 幼児教育学科
学科長 森永 牧子

「ロボット工場」

《ねらい》

- ・イメージを膨らませながら友だちと一緒に表現することを楽しむ
- ・指先など身体の細部を意識しながら表現を楽しむ

運動会では動物になりきって身体表現を楽しみました。発表会の身体表現は何をする？と尋ねると「ロボットがいいじゃない？」「消防ロボットとかあったらカッコいいね！」と、どんどんイメージが膨らんで色んなロボットのアイデアを出していた子どもたち。

今日はステージがロボット工場になって様々なロボットが登場します。

“こんなロボットがあったらいいなあ～” そんな未来の夢が現実に！！どんなロボットが出てくるのでしょうか？お楽しみに！

～発表を見るポイント～

見ている人を意識して自分で工夫している様子や体験したこと、想像したことを自分の身体で伝えるところ

身体表現はおもしろい

身体表現は自分で観たもの、感じた事を身体で表現します。感じ方は一人ひとり違うので、表現もいろいろです。どの動きも間違いではなく、自分らしさを発表します。

体験したり調べたりすることで、観察力・想像力を培い、友だちと作りあげることで協調性が育ち身体全身を動かすことで、運動能力も身につけていきます。

「みんなで楽しくリズム遊び」

《ねらい》

- ・リズムに合わせて身体を使って表現することを楽しむ
- ・友だちと聴き合いながら、ユニゾンリズムやリズムアンサンブルの楽しさを味わう。

九州大谷幼稚園年中クラスは、今年度ボディパーカッション教育の考案者である山田俊之先生にご指導いただき、ボディパーカッションの活動に取り組んできました。色々なリズム遊びや動きの経験を通して活動を思いっきり楽しめるようになってきました。はじめは、お友達と合わせてたたくとつられてしまうこともありましたが、少しずつ周りの音を聞いたり感覚を覚えたりしながら上手にできるようになってきました。歌やダンスに合わせて体を動かしたり音を出したり、楽しんで行うことができています。

今回は、沢山の人の前での発表で、ちょっぴり緊張しているかもしれませんが、子ども達が楽しんできたボディパーカッションを会場の皆さんとも一緒に楽しみたいと思っています。子ども達と一緒にボディパーカッションに参加して、お楽しみください！

ボディパーカッション教育について

ボディパーカッションには、子どもたちが遊びとして主体的に取り組める楽しさがあります。「みなさんリズム」のようなリズムに乗って身体的活動や発声をする事を通して、子どもたちは精神的にも開放され、心身の調和が図られます。

幼児期にボディパーカッションを体験する事により、単にリズム感や拍子感が養われるばかりでなく、運動感覚や身体技法としての表現力を培っていくことが出来ると考えています。

「十二支のはじまり」

今回Ⅰクラスでは、『十二支のはじまり』という絵本を題材とし、劇遊びに挑戦し、劇の中に競技を取り入れアレンジを加えながら楽しい物語に仕上げました。

動物たち一匹一匹の個性や特徴を生かし、方言も取り入れ面白くなるように工夫しました。

子ども達に十二支がどうやって決まったのか分かりやすく楽しみながら理解してもらえるようなイメージで表現しています。

ぜひ、みなさんも物語の中に入り、一緒に楽しんでください♪

☆あらすじ☆

むかしむかし、ある年の暮れに神様が動物たちに「一月一日の朝、一番目から十二番目まで新年の挨拶に来た順番にその年の大将にしてあげる」と言った。それを聞いた動物たちは、猫の「運動会をしながら行こう」という提案にみんな大盛り上がり。

ところが猫は神様のところに行く日を忘れてしまい、ねずみに聞くと「1月2日だよ」と言われた。その言葉を信じた猫であるが、その日付は嘘の日がちだった。猫は運動会に参加できなかったのである。

それぞれの運動会を繰り広げながら順番が決まっていくのである……!!!

☆登場人物☆



(かみさま) 松延美奈・二年



(ねこ) 宮本千穂・二年



(ねずみ) 桑原千穂・二年



(うし) 吉田翔子・二年



(とら) 笠井春希・二年



(うさぎ) 今泉美優・二年



(りゅう) 井手莉穂 (音声)・二年



(へび) 久木迫璃央 (音声)・二年



(うま) 進藤希代子・二年



(ひっぴ) 久木迫璃央・二年



(さる) 伊藤未紗希・二年



(とり) 赤星友梨・二年



(いぬ) 井手莉穂・二年



(いのしし) 糸山憲汰郎・一年

ピアノ  江崎・一年 今泉・二年 松延・二年

「君の心を開いて～『きりかぶ』より～」

九州大谷短期大学幼児教育学科 Gクラス

今回、Gクラスでは、「君の心を開いて～『きりかぶ』より～」というタイトルで、造形表現を中心とした総合表現に挑戦しました。九州大谷短期大学の食堂横にあった記念樹のピンオークの木が、台風で倒れたことで出来た切り株を題材に、Gクラスならではの造形表現を中心に大学での学びを活かして「君の心を開いて～『きりかぶ』より～」を表現していきます。タイトルにある主人公の「きりかぶ」の気持ちについて、鑑賞する皆様と一緒に考えることが出来るストーリーとなっていて、その手掛かりとして「きりかぶ」の気持ちを周辺に配置した四角錐の色が変化していきます。

☆あらすじ☆

立派で枝を広く張っていた大きな木。それが、ある日切り株となってしまいます。もう誰の役にも立つことはないと思い込んでいたところ、たくさんの動物との出会いの中でその気持ちに少しずつ変化が起きます。彼らとの出会いは、自分はここにいていい、そのままでも必要な存在なのだということを感じさせてくれます。気持ちの変化を表す四角錐や場面ごとに出てくる造形物。さらには、動物たちの動きの身体表現やナレーションの言葉表現。どの場面も一人ではできないチームワークの良さが見所です。

☆場面編成及び表現担当者☆

* 担任：恒賀 康太郎 先生

* 脚本：森川 有希

* Narration: 國武 志保

* Piano: 福山 里穂・江頭 芹奈・菊池 七海

* ピンオークの木：〔2年〕福山 里穂

* かめ役：〔1年〕大浦 佐知・古賀 葉月・芳賀 奈月・猿渡 愛華・青木 真郁・友清 カレン

* ねずみ役：〔2年〕河口 凌・森川 有希・南 柚希・樋口 亜美・大久保 愛美・横江 咲輝

三小田 彩花・諸藤 朱音

〔1年〕伊崎 大雅・塩崎 恭大

* ふくろう役：〔2年〕山口 蒔乃

* 北の場面の作成及び構成：〔2年〕西原 杏奈・三小田 彩花・末松 美咲・諸藤 朱音・古賀 未来

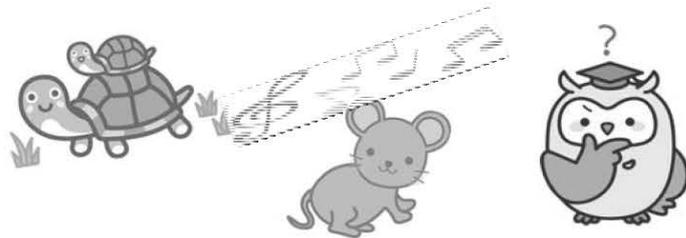
〔1年〕松永 伊織・津留 亜輝斗・野元 厚志

* 南の場面の作成及び構成：〔2年〕河口 凌・森川 有希・南 柚希・大久保 愛美・横江 咲輝

〔1年〕大浦 佐知・木下 綾菜・川上 莉奈

* ねずみのおばあさん役：〔2年〕樋口 亜美

* 舞台裏：〔1年〕藤瀬 樹里・植村 結奈・松木 穂乃花・黒木 彩花



「人生 100 年、いや 120 年～自分らしく、その人らしく～」

九州大谷短期大学専攻科福祉専攻 S クラス

～介護が必要になっても自分らしく、その人らしく～ 創作絵本

私たちは介護保険のことを絵本で表現しました。

介護保険とは…

- ・介護が必要になった人が有する能力に応じた尊厳を保持したその人らしい自立した日常生活が営むことが出来ることを目指す。
- ・必要な保険、医療サービス、及び福祉サービスが給付。

この内容を分かりやすくイメージできるように、絵本に動物たちを登場させて1つの物語を作りましたので、お楽しみください！

～誰でも楽しめる音の世界～ 世代間交流

日本の伝統文化の1つとして三味線があります。三味線に見立てたものでスコップ三味線というものを知りました。スコップ三味線をするにあたり、ひまわり会の方と地域交流を続けてきました。今日はスコップ三味線の演奏と健康体操を披露します。それでは、お楽しみください！！

スコップ三味線とは…

スコップと栓抜きを用いて音楽に合わせて、津軽三味線の真似をして演奏するもの。津軽三味線の叩きつける音とスコップを叩く音がマッチして、本当に弾いている感覚を演奏者・聴衆ともに味わうことができる。楽器演奏の技術を必要とせず誰でも行うことが出来るが、本当に弾いているように見せるには、熟練の技を必要とする。

1985年頃から始まり、2007年には「第一回スコップ三味線世界大会」が開催されている。



「赤ずきん」

九州大谷短期大学幼児教育学科 Fクラス

～他者を信頼する事の大切さと難しさ～

赤ずきんのストーリーには、赤ずきんに近づき命を狙うオオカミと、赤ずきんとおばあさんを助けるために力になってくれる猟師が出てきます。赤ずきんからすると、オオカミも猟師も他人です。赤ずきんはオオカミを疑う事もなく信頼して危険な目に合い、また猟師によって命を救われます。

他者を信頼する事には大きな危険もありますが、他者を信頼して力を借り、共に生きることも大切な事です。この事は、この物語が我々大人達にも子ども達にも同じように問いかけている、大切なメッセージではないでしょうか。



保育における「発表会」への提起として

今回発表の舞台を、「大道具や飾りが無くて寂しい」「準備や練習の手間を省いたのでは？」とご覧になる方もおいでかもしれません。今回の発表は、従来から保育現場において見受けられる発表会における劇、発表会そのもののあり方についての提起として、以下のような点を考えながら創りました。

従来より見受けられる発表会のスタイル	今回の発表
<ul style="list-style-type: none"> ○保育者・大人が力を注いで作った大道具や背景 <ul style="list-style-type: none"> ・制作に手間と時間、費用を要する ・道具(大人の努力)が発表の重要な要素となる ・ゴミを排出し、環境にも悪影響 ○細かく決められた動きや立ち位置 <ul style="list-style-type: none"> ・覚えるまで練習する事が求められる ・間違わない事に必死にならねばならない ○一言一句計画されたセリフ <ul style="list-style-type: none"> ・内容を楽しむより覚え、間違わない事が優先 ・自分なりの表現を模索する事が難しい ★大人の頑張りによって演出され、保育者の努力が問われる発表会 ★子どもは決められた事、練習したことを行う事に必死になり生活や育ちの姿ではなく努力が認められる事が中心。 	<ul style="list-style-type: none"> ○手間のかかる大道具や背景は出来る限り排除 <ul style="list-style-type: none"> ・発表の為に手間や時間が費やされない ・道具(大人の努力)は発表にとって重要でない ・ゴミを出さず環境にやさしい ○動きや立ち位置は大まかにしか決めない <ul style="list-style-type: none"> ・面白くない練習をさせられる苦痛がない ・なりきったり楽しんだりする事に専念できる ○セリフは大まかな内容のみしか決めない <ul style="list-style-type: none"> ・覚え、間違わない事より内容を楽しむ事を優先 ・自分なりの表現を模索する事が出来る ★子どもの自然な姿を中心に演出され、子どもが中心となれる発表会 ★子どもは現在のありのままの姿で主体的に取り組んで楽しむことが出来、生活や育ちの姿が大事にされる事が中心。

「赤ずきん」について

赤ずきんは、病気のおばあさんのお見舞いに出かけます。

けれども、おばあさんのベッドで待ち構えていたのは、オオカミだったのです・・・。

赤ずきんの物語のルーツは、17世紀に刊行されたペロー童話集に遡ります。この童話集は、ヨーロッパ各地の物語を集め、残虐性を取り除いて書き直されています。「赤ずきん」は、もとの物語では、おばあさんの生血が飲まれ、生肉が食べられるようなシーンがありましたが、このペロー童話でそのシーンは除かれています。しかし、物語は、おばあさんと赤ずきんが食べられたままで終わっていました。現在よく知られている「赤ずきん」の物語では、おばあさんと赤ずきんは、猟師によってオオカミのお腹の中から助けられます。これは、19世紀にグリム兄弟によって書かれたグリム童話が元となっているようです。

✂エンディング あいにきてあかずきんちゃん！（福田りゅうぞう：詞、鈴木翼：曲）

「四季音～Sounds of Four Seasons～」

九州大谷短期大学幼児教育学科 Mクラス



四季音



～Sounds of Four Seasons～

私たちMクラスは、「身近なもので音を創り、四季を表す」をテーマに、子どもたちが身近なものを使って、やってみたくなるような音遊びを考えてみました。猫が感じる四季を、制作した“音”、ピアノ、ダンスで表現します。

Mクラスが創り出す空間の中で、是非皆さんも、「この音はなんだろう」「今はこの季節かな」と想像しながらお聴きください。 ～ Mクラス一同 ～

[ねらい]

- ・巡りゆく日本の四季を感じてもらう
- ・音を聴いて、自分なりの季節を想像する
- ・身近なものを使って出す音を聴いて、子ども達もやってみたくなる（自らやりたくなる）

春



鳥の鳴き声：木、ボルト

鳥の羽音：新聞紙

雨：紙芯、つまようじ、ビーズや大豆

カエル：紙コップ、割りばし、リリアン糸、ボンド、ペットボトル、洗濯バサミ

夏



セミ：ステンレスザル

船の汽笛：空き缶、ストロー、ガムテープ

雷鳴：缶箱、ビー玉

花火：ジェット風船、風船、段ボール、ビー玉

こんなもので作りました！

秋



落ち葉：アルミホイル

ほうき：新聞紙

スズムシ：牛乳瓶、ビーズ

冬



雪を踏む：片栗粉、フェルト

鍋物：缶、ストロー

神社の鈴：一升瓶、ビーズ



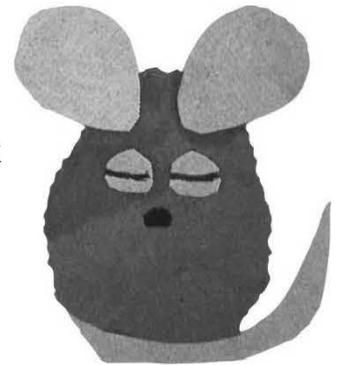
「フレデリックからの大切な贈り物」

九州大谷短期大学幼児教育学科 Hクラス

私たちHクラスは、レオ＝レオニ作「フレデリック」の絵本を題材にし、「フレデリックからの大切な贈り物」という題名に改め、創作表現発表を行います。

<あらすじ>

あるところに五匹ののねずみの家がありました。
冬に向けて食材集めをしている、のねずみ達。だけど一匹だけは
なんだかちがう...その名は「フレデリック」
さて、フレデリックは何をしているのでしょうか...



<見どころ>

絵本の前半の場面は、1ページずつ丁寧に創作してスライドにしました。
そのスライドでは、実際に学校の敷地内から石、木の棒、葉っぱを集めて表現しました。
草原には、この絵本ならではの色合いを表現するべく、スポンジに絵の具をしみこませて叩くように描いていきました。花などは、ボタンやおはじきを使うなど様々な工夫を
しました。

ぜひ、そちらにも注目していただきたいです!!!

そして後半、雪の場面あたりから舞台上に絵本を再現し、私たちが実際に、のねずみ
になりきって登場します。

声かけや音楽、身体表現ならではの動きも含めご覧ください。

<配役>

二年生

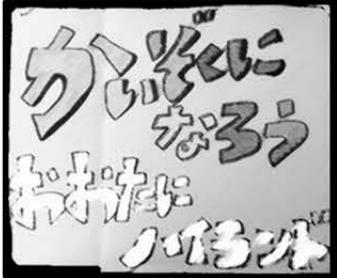
- ★ ナレーション…北原
- ★ フレデリック…塩塚
- ★ のねずみ…一村、井手、豆田、諸富

一年生

- ★ のねずみ(声)…塚本、布谷、野口、松岡、森
- ★ 黒子のねずみ…石原、井上な、井上は、嶋田、塚本、徳永、布谷、野口
樋口、松尾、松岡、馬渡、森、吉田

「かいぞくになろう！おおたにハイランド」

九州大谷短期大学幼児教育学科 Lクラス



今年の5月、Lクラスは 幼教フェスタで
「かいぞくになろう！おおたにハイランド」
をテーマにして、様々な遊び場を 考えました。
その時の内容を ストーリー化して、今回の
遊びと表現発表会で 発表することにしました。

【ストーリー】

ある山に 一人の女の子が すんでいました
女の子の名前は「エル」
エルは 山のある島からは 一度も出たことはありませんでした

山には いろんなところに行つては その話をしてくれる
友達のトラがいました

ある日 トラが真剣な顔で 話をしはじめました
その話とは・・・

【内容】

ストーリーを4部に構成し、身近な小物や運動用具を
用いた運動遊びや創作ダンスなどで身体表現劇をします。
セリフはありませんが、物語の出来事や心の様子
(楽しい、不安や悩み、やる気、嬉しいなど)が
伝わるよう工夫しました。
私も一緒にやってみたいと思ってもらえると
幸いです。



第一部
平凡
(1年生)
運動遊び

第二部
目覚め
(2年生)
身体表現

第三部
挑戦
(2年生)
運動遊び

第四部
成長
(合同)
創作ダンス

「遊びと表現発表会」第1回～第8回の歩み

第1回	2011年 12月17日(土)	Fクラス:「一人じゃないよ～詩と音と動きの共演～」 G・Kクラス:身体表現「あなたがうまれたひ」 Hクラス:「ソーラン節」 Iクラス:「竹遊びの可能性～プレーパークとキャンドルナイトの実践～」 Jクラス:パネルシアター「いのちのつながり」 Lクラス:「ことばでつながきもちとこころ」(のはらうた・きもちのキセキ) Mクラス:リズム遊び「リズム遊びって何？」 専攻科S・Tクラス:「みんなで楽しめる音楽」
第2回	2012年 12月16日(日)	松原保育園5歳児きく組:身体表現「温度」 Fクラス:「思いやりの心でつなぐ世界」 Gクラス:「子どもの表現活動の活性化に向けてー身体表現の立場からー」 Hクラス:「Happiness」～明日に向かって～ Iクラス:「エイサーが伝える地域文化ー今、子どもに伝えるために」 Jクラス:「glee」ー自分を開放し、歓喜するー Kクラス:「THE 縄～エピソード・オブ・ロープ」 Lクラス:「みんなで遊ぼう!!ー子どもの気持ちに寄り添って」 Mクラス:「継続的な保育展開を考えるー「ほね、ほね、キョウリュウのほね」ー 専攻科S・Tクラス:車いすダンス、棒体操、手話
第3回	2013年 12月14日(土)	松原保育園5歳児きく組:身体表現「Weather Report (ウェザー リポート)」 Fクラス:音楽劇「私をつくるもの」 Gクラス:身体表現「カレーライスを作ろう」日常生活に題材を得る Hクラス:「Smile」～笑顔～世界中が幸せに～ Iクラス:布を使った遊びと表現 Jクラス:ペープサート劇「ひまわりの一生ー受け継がれていくいのち」 Kクラス:身体表現「絵からとびだせ」 Lクラス:巨大ペープサート劇「しりとり村のしりとりす」 Mクラス:テーマに基づいて保育を展開するー「いろいろ へんないろのはじまり」ー 専攻科S・Tクラス:コミュニケーション～人と人が関わり合う～
第4回	2014年 12月14日(日)	Fクラス:音楽劇「みんなそらのした」 Gクラス:身体表現「もこもこもこ」、ボディパーカッション Hクラス:劇表現「はらぺこあおむし」 Iクラス:「沖縄の伝統芸能エイサーを通して学んだことー人と人をつなぎ、大人から子どもへ伝統をつなぐ」 Jクラス:大型ペープサート「つきのうさぎ」 Kクラス:身体表現「彩想絆輪(さいそうきりん)」 Lクラス:影絵「スイミー」 Mクラス:保育展開「かいじゅうたちのいるところ」 専攻科S・Tクラス:介護劇・クイズ「介護の良さを知ってもらおう」
第5回	2015年 12月13日(日)	松原保育園5歳きく組:身体表現「スイミー」 Fクラス:スライド発表・音楽劇「小さな贈り物～大人の知らない子どもの力～」 Gクラス:ボディパーカッション・手話・段ボール遊び Hクラス:劇「おおかみと9ひきのこやぎ」 Iクラス:スライド発表・演奏・ダンス「竹を使った遊びと表現～竹と光と～音の融合”バンブーナイト”の実践」 Jクラス:ミュージカル「ふくろうのそめものや」 Kクラス:身体表現「仲間と共に」 Lクラス:影絵劇「いつでもきみと～The four seasons～」 Mクラス:保育展開の劇「そしてボクは安心した～対応困難場面を考える～ 専攻科Sクラス:劇で脳トレ・手話ダンス「住み慣れた地域で楽しく暮らす」
第6回	2016年 12月17日(土)	松原保育園4歳さくら組:身体表現「草原の王者カマキリ～いのちをつなぐ奇跡～」 Fクラス:音楽劇「森は生きている」 Gクラス:詩の暗唱「みみをすます」、バランス遊び「自然の素材で遊ぶ～木の枝～」 Hクラス:劇遊び「おおきななぐ」 Iクラス:スライド発表・実演・影絵「光と影を使った遊びと表現」 Jクラス:音楽劇「うらしまたろう」 Kクラス:身体表現「出遇いととも(スイミー)」 Lクラス:結～「おおきな木」「小さなあなたへ」～ Mクラス:障がいをもつ子どもとどう向き合うか～先天性四肢障害・『さっちゃんのまほうのて』を通して～ 専攻科S・Tクラス:私と介護とときどきデイサービス
第7回	2017年 12月16日(土)	松原保育園4歳さくら組:身体表現「あさがお」 Fクラス:絵本読み聞かせと演奏「ふるやのもり」「めつきらもつきらどおんどん」 Gクラス:アートパフォーマンス「デカルコマニーで表現する四季」 Hクラス:劇遊び「十二支のはじまり」 Iクラス:身体表現「四季の息吹」 Lクラス:シルエット劇「おおかさんとどこにいったの？」 Mクラス:大型ペープサート「はらぺこあおむし」 専攻科S・Tクラス:研究発表「一人ひとりの時間」
第8回	2018年 12月15日(土)	下見保育所4歳児:身体表現「きりん組 からだ科学館へようこそ」 九州大谷幼稚園年中児:ボディパーカッション「みんなで楽しくリズム！」 Fクラス:運動遊び・身体表現「Over The Rainbow」 Gクラス:造形遊び「つくってあそぼう～にじいろのしまうま～」 Hクラス:ペープサートと音楽「3びきのやぎのがらがらどん」 Iクラス:劇「くろくんとなぞのおばけ」 Lクラス:シルエット劇・ショートストーリー「わたしは5歳」 Mクラス:劇「☆The place where we can shine☆」 専攻科S・Tクラス:車いすダンス・手話「みんなの輝き繋げていこう～人生無限大～」

「遊びと表現発表会」開催趣旨

- 九州大谷幼児教育・児童福祉学会の研究発表会として、会員が行った幼児教育・保育・介護・福祉における「遊び」や「表現」に関する研究の成果を公開発表する。
- 九州大谷短期大学「本学の願い」に表明されている「人生の主体者となる」「共に歴史と世界を生きる」「問を学ぶ」を、遊びと表現活動において学生・教員・発表者・参加者が共に実践する。
- 子ども達あるいは介護を必要とする人達の援助者として、会員が「遊びや表現を主体的に行う者」となるための意志と実践力を確かなものにするとともに、発表を通して達成感や自信を得られる機会とする。
- 会員の学びを現場での実践に結びつくものとしてシフトアップさせるため、表現する自分に挑戦する姿勢を育むとともに、教育・保育・介護・福祉現場との連携を密にする。